

## 週刊 女川湾海況速報 (No.41)

発行：東北大学女川フィールドセンター

東北大学マリンサイエンス復興支援室

4 月 30 日から 5 月 2 日の小乗南防波堤定点と St.1 の海洋観測情報

## 観測点



## 小乗南防波堤定点の結果

①水温・塩分：先週と比較して水温は全層で上昇傾向にあり、7～8℃台を示した。経時的には 2 日に表層(0m)で上昇したが、底層(6m)では下降。塩分は先週と比較して表層で下降したが、底層では同程度の値を維持。経時的には 2 日に全層で下降。特に表層での下降が顕著であり、32PSU 以下を示した。

水深 [m]	4月30日 (月)	5月1日 (火)	5月2日 (水)
0	7.9 (32.8)	8.0 (32.5)	8.6 (31.8)
6	7.8 (32.8)	7.8 (32.8)	7.6 (32.7)

水温の単位は℃。カッコ内の塩分の単位は PSU (実用塩分単位)。\*30日は水深5mのデータを使用。

②濁度：先週と比較して全層で下降。経時的には 30日に表層で、1日と2日には底層でそれぞれ高い値を示した。(単位は FTU)

水深 [m]	4月30日 (月)	5月1日 (火)	5月2日 (水)
0	1.1	0.6	0.7
6	0.8	1.2	1.2

③溶存酸素：先週と比較して表層では下降したが、底層では同程度の値を維持し、期間を通じて全層で 11～14mg/l 台を示した。経時的には 5日に全層で下降し、表層では 11mg/l 台を示した。

水深 [m]	4月30日 (月)	5月1日 (火)	5月2日 (水)
0	12.6	13.8	11.8
6	13.5	14.3	13.1

単位は mg/l。水産用水基準(水産動植物が正常に生息および繁殖ができる値)：4.3mg/l 以上。

## St.1 の結果

水温、塩分はそれぞれ 6.0～8.2℃、32.3～33.3PSU の範囲にあり、水深 15m 以深には外洋水の影響が及んでいたと推定。濁度は 0.6～0.8FTU の範囲にあり、鉛直的にはほぼ一定。溶存酸素は 11.1～14.2mg/l の範囲にあり、底層(18m)で最小。

4 月 30 日

水深 [m]	水温 [℃]	塩分 [PSU]	濁度 [FTU]	溶存酸素 [mg/l]
0	8.2	32.3	0.8	13.7
5	7.8	32.8	0.6	14.2
10	6.8	33.1	0.8	13.6
15	6.2	33.3	0.8	11.9
18	6.0	33.3	0.8	11.1

本データの利用については、東北大学マリンサイエンス復興支援室

Tel.: 022-717-8827

Fax: 022-717-8828

E-mail:

[agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp](mailto:agr-marin@bureau.tohoku.ac.jp)

までお問い合わせください。